

第2章 令和元年台風第19号災害の概要及び被害状況

1. 令和元年台風第19号の概要

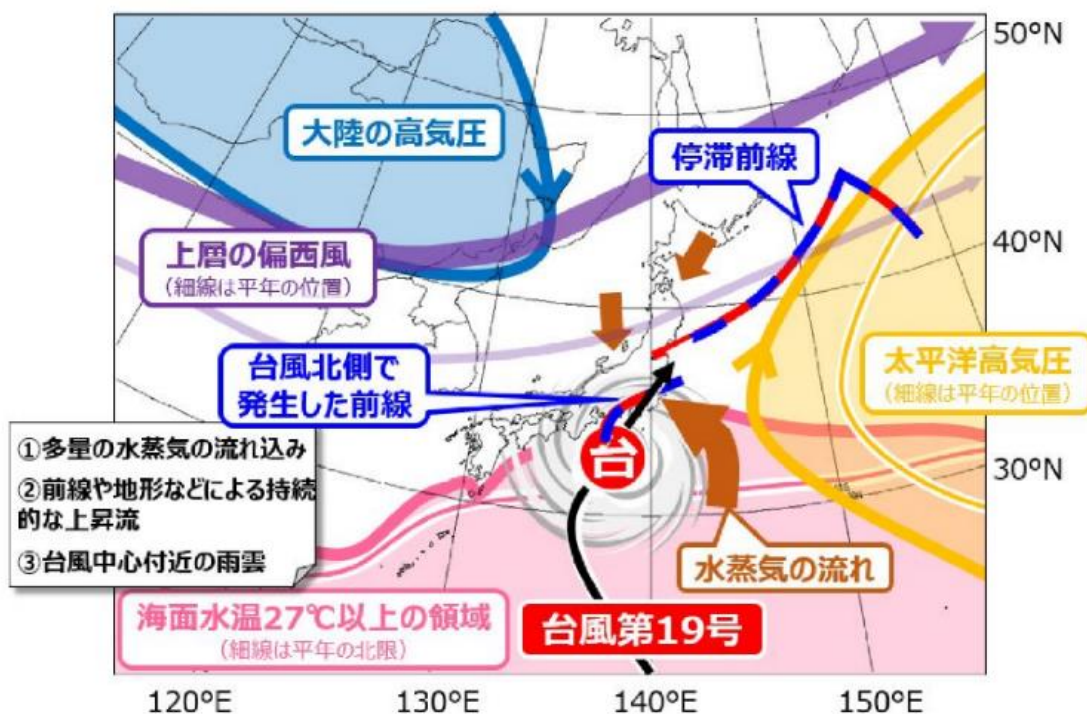
(1) 気象状況

令和元年台風第19号は、令和元年10月6日午前3時に南鳥島の南海上で発生後まもなく急速に発達して猛烈な台風となり、その後、大きく勢力を弱めることなく、上陸直前まで非常に強い勢力を維持しました。また、強い勢力で静岡県に上陸した後、関東甲信地方と東北地方を通過しました。

これに伴い、東日本と東北地方を中心に広い地域で記録的な大雨となり、1都12県で大雨特別警報の発表に至りました。多くの地点で12時間降水量等の観測史上1位の記録を更新し、令和元年10月12日に北日本と東日本のアメダス地点（1982年以降で比較可能な613地点）で観測された日降水量の総和は観測史上最大となっています。

東海地方から東北地方で記録的な大雨をもたらした気象要因について気象庁では、大型で非常に強い勢力をもった台風の接近による多量の水蒸気の流れ込み、台風北側の前線の形成・強化及び地形の効果などによる持続的な上昇流の形成、台風中心付近の発達した雨雲の直接的影響の3点が主要因であったと分析しています。

図1 台風第19号による大雨の気象要因イメージ



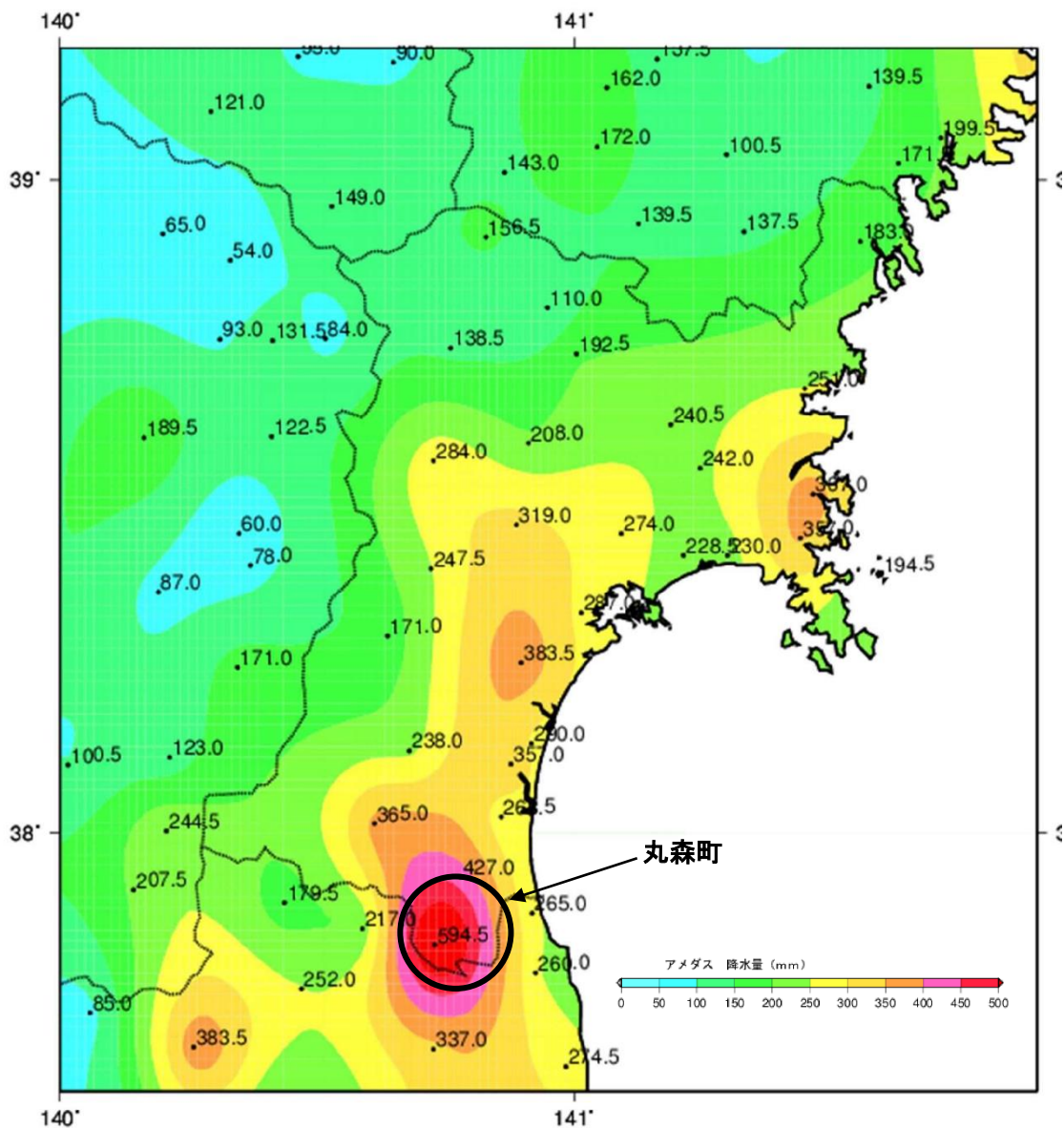
出典：「令和元年台風第19号に伴う大雨の要因について」

(気象庁 令和元年12月23日)

(2) 宮城県内の降水量

宮城県においては、令和元年10月11日から前線の影響で雨が降り出し、翌12日には台風の接近により昼過ぎから激しい雨となりました。その後台風の接近・通過に伴い、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しい雨となり、局地的に猛烈な雨となりました。10月11日午後3時から13日午前9時までの総雨量は、宮城県の広い範囲で200mm以上の大雨となり、筆甫594.5mm、丸森427.0mm、石巻市雄勝367.0mm、仙台383.5mmと10月1か月分の平年値の2～3倍の雨量となりました。

図2 宮城県内の期間降水量分布図（令和元年10月11日午後3時～10月13日午前9時）



出典：「宮城県災害気象資料」（令和元年10月17日 仙台管区気象台）
を基に丸森町作成

表1 各地点の期間降水量（期間：令和元年10月11日午後3時～10月13日午前9時）

観測地点	市町村	降水量(mm)	観測地点	市町村	降水量(mm)
筆甫	丸森町	594.5	女川	女川町	357.0
丸森	丸森町	427.0	岩沼	岩沼市	357.0
仙台	仙台市	383.5	大衡	大衡村	319.0
雄勝	石巻市	367.0	名取	名取市	290.0
白石	白石市	365.0	塩釜	塩竈市	287.0

出典：「宮城県災害気象資料」（令和元年10月17日 仙台管区気象台）
から上位10地点を抜粋

（3）丸森町内の降水量及び河川の水位

町内には6箇所の雨量観測地点があり、そのうち大内観測所で総雨量612mmの最大雨量を観測しました。

また、河川の最大水位は、阿武隈川で降り始めから8.56m上昇し23.44m、雉子尾川で降り始めから6.74m上昇し7.11mを記録したほか、県管理の内川、新川及び五福谷川において計18箇所が決壊するなど、町内に深刻な浸水被害が発生しました。

表2 町内各観測所の雨量および河川の水位（令和元年10月12日～10月13日）

観測所	総雨量 (mm)	最大時間雨量 (mm)	最大時間雨量記録日時
丸森	427	60	10月12日午後11時
内川	314	54	10月12日午後10時 (以降破損により欠測)
笠松	560	78	10月12日午後10時
筆甫	594	74	10月12日午後8時
大内	612	77	10月12日午後10時
大張	481	55	10月12日午後10時

河川名	観測所	最高水位 (m)	降り始めからの上昇 (m)	最高水位記録日時
阿武隈川	丸森	23.44	8.56	10月13日午前5時
内川	内川	—	8.71	浸水により欠測(10月12日午後9時に9.84mを記録)
雉子尾川	山居	7.11	6.74	10月12日午後11時20分

出典：丸森町資料

2. 主な被害の状況

(1) 人的被害

今回の台風災害により、本町では 10 名の尊い命が犠牲となったほか、1 名が依然行方不明となっています。地区別に見ると丸森地区で死者 8 名、行方不明者 1 名と最も被害が多くなっています。

また、救助件数は 50 件、97 名となっています。

(2) 住家被害

町内の住家被害は合計 1,050 件に上り、全壊が 100 件、大規模半壊が 205 件、半壊が 508 件、準半壊が 11 件、一部損壊が 226 件となっており、全壊及び大規模半壊、半壊が、被害の合計件数のほとんどを占めています。

被害件数を地区別で見ると、丸森地区が 516 件 (49.1%) で全体の約半数を占めています。

表 3 地区別の住家被害件数

地区	被災 (件)					計
	全壊	大規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	
丸森	69	132	236	6	73	516
金山	4	30	164	1	27	226
筆甫	7	7	25	0	15	54
大内	7	4	36	1	37	85
小斎	4	25	11	0	9	49
舘矢間	2	1	7	3	44	57
大張	3	4	15	0	11	33
耕野	4	2	14	0	10	30
合計	100	205	508	11	226	1,050

出典：丸森町資料（令和 2 年 2 月 29 日現在）

(3) 施設及び産業関連の被害状況

今回の台風災害により、本町が管理する道路や河川等の公共土木施設及び農林業施設等において、合計 2,904 箇所約 325 億 8 千万円の被害となったほか、行政施設や学校教育施設等の公共施設においても約 23 億 9 千万円の被害が生じました。

また、農作物や農業用機械をはじめ、商工業事業者の施設・設備などの本町関連産業の被害は約 72 億 5 千万円に上るなど、総額で約 422 億 1 千万円の被害となりました。

表 4 施設及び産業関連の被害状況

施設名等		箇所数	金額（千円）
公共土木施設		683	12,553,000
土木施設	道路	341	6,428,300
	河川	338	4,764,700
	橋梁	3	260,000
都市施設	公園	0	0
	雨水ポンプ場	1	1,100,000
農林業施設		2,216	19,621,620
農業用施設	農地	786	8,830,100
	水路	676	3,965,074
	農道	470	2,779,046
	頭首工等	108	1,555,100
林業用施設	林道	155	2,204,000
揚排水機場		21	288,300
公共下水施設		3	51,000
農業集落排水施設		2	350,000
小計		2,904	32,575,620
行政施設、学校教育施設、公営住宅ほか			2,386,953
農作物（364ha）、農業用機械等			1,145,440
商工業関係			6,100,570
合計			42,208,583

出典：丸森町資料（令和 2 年 2 月 29 日現在）

3. 応急・復旧、被災者支援の取組状況

(1) 避難情報発令の経過

台風の接近にともない、令和元年10月12日午後2時に警戒レベル3避難準備情報を発令し、その後、同日午後3時20分に警戒レベル4避難勧告、同日午後7時50分にレベル5災害発生情報に引き上げ、その後、大雨や洪水に関する気象警報・注意報が解除されたことにより、令和元年10月20日午前9時40分に警戒レベル4避難勧告を解除しました。

表5 避難情報発令状況(令和元年10月12日～10月20日)

月日	時間	避難情報発令
10月12日	午後2時00分	警戒レベル3 避難準備情報 発令
	午後3時20分	警戒レベル4 避難勧告 発令
	午後7時50分	警戒レベル5 災害発生情報 発令
10月20日	午前9時40分	警戒レベル4 避難勧告 解除

出典：丸森町資料

表6【参考】警戒レベルを用いた避難勧告等の発令

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をする。	災害発生情報(※) (※) 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令
警戒レベル4	速やかに避難先へ避難。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所等へ避難。	避難勧告 避難指示(緊急)(※) (※) 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令
警戒レベル3	避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は避難する。その他の人は避難の準備を整える。	避難準備・高齢者等避難開始
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	洪水注意報 大雨注意報等
警戒レベル1	防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める。	早期注意情報

※警戒レベル1及び2は気象庁が発表、警戒レベル3～5は市町村が発令

出典：「警戒レベルに関するチラシ」(内閣府(防災担当))を基に丸森町作成

(2) 避難者数

令和元年10月12日午後7時50分にレベル5災害発生情報が発令された後、午後10時20分時点で町内16箇所の避難所に438名が避難しました。

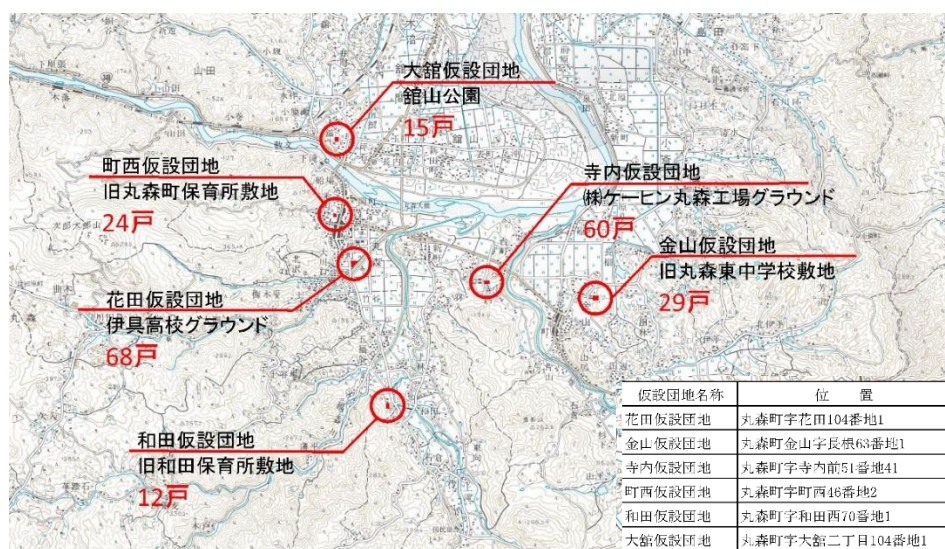
なお、令和元年10月25日午後11時30分時点が最大で、町内15箇所の避難所に545名が避難しました。

(3) 応急仮設住宅

応急仮設住宅については、令和元年12月末に6箇所、208戸の建設型応急住宅（プレハブ仮設住宅）が建設され、令和2年2月末現在、入居を希望した176世帯すべてが入居しています。

また、賃貸型応急住宅（みなし仮設住宅）には、96世帯が入居しています。

図3 建設型応急住宅（プレハブ仮設住宅）の建設地



出典：丸森町資料（令和2年2月29日現在）

(4) り災証明書等の発行状況

り災証明書については、受付1,421件に対し、発行は1,415件（進捗率99.6%）となっています。

また、被災証明書については、受付1,877件に対し、発行が1,877件（進捗率100.0%）となっています。

表7 り災証明書及び被災証明書の受付・発行件数

種類	受付（件）	発行（件）	進捗率
り災証明書	1,421	1,415	99.6%
被災証明書	1,877	1,877	100.0%

出典：丸森町資料（令和2年2月29日現在）

(5) 災害義援金及び寄附金の状況

災害義援金について、令和元年台風第19号災害義援金として宮城県を通じて本町に計222,860千円が配分されたほか、町独自で受け付けている丸森町災害義援金が64,615千円となっています。

また、寄附金については、ふるさと納税を含め合計で285,224千円となっています。

表8 令和元年台風第19号災害義援金及び丸森町災害義援金の状況

	金額
第一次配分額	60,780千円
第二次配分額	162,080千円
丸森町災害義援金（町独自）	64,615千円
合計	287,475千円

出典：丸森町資料（令和2年2月29日現在）

表9 寄附金の状況

	金額
寄附金	100,947千円
ふるさと納税	184,277千円
合計	285,224千円

出典：丸森町資料（令和2年2月29日現在）

(6) ボランティアの受入状況

令和元年10月16日に、丸森町社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを開設し、多くの支援団体の協力のもと、受け入れたボランティアの人数は延べ16,750人に上り、被災家財、土砂・泥等の搬出や家屋等の清掃など被災した町民のニーズに応じた各種支援をいただいています。

表10 ボランティアの受入状況

延べ人数	活動内容
16,750人	被災家財、土砂・泥等の搬出、家屋等の清掃、被災廃棄物の運搬 など

出典：丸森町資料（令和2年2月29日現在）